



ほうさ 第33号

1988年1月

名古屋市蓬左文庫
Nagoyashi Hōsabunko

展示室 よ り

近世上流婦人の教養

～尾張徳川家婦人達の蔵書～

1.16(土)～3.20(日)
(2.18(木)・19(金)は展示替休室)

蓬左文庫の前身、尾張藩の御文庫の蔵書は、初代藩主義直、二代光友をはじめ、歴代藩主のコレクションを中核として形成されたものであるが、これとともに、藩主の夫人や娘など、藩主の周辺の女性たちの蔵書も尾張藩の蔵書の重要な部分を占めていた。

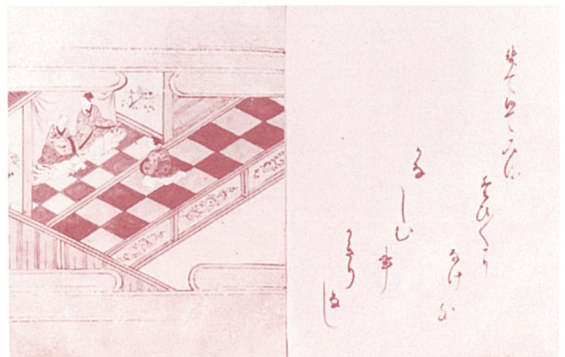
婦人達の蔵書は、個人の所持品としての性格が強く、死後は近親者や側近に遺品として分譲されることが多かっただけでなく、能書家の筆になる写本や、装幀に贅を尽した美本が多いことから、一たんは御文庫に収められても、名古屋城内や別邸の調度に用いられたり、藩主や婦人達の手元に再度持ち出されたりと異動が頻繁であったらしい。このため、所蔵者が明確な状態で、一貫して御文庫の蔵書として伝えられたものは少なく、現在の蓬左文庫の蔵書で女性の所蔵者が確定できるものは数件にしかすぎない。今回の展示では、現存する蔵書目録に女性の蔵書として登場する書名の書物を、文庫に伝来する書物の中から選んで構成するものである。

大名家の婦人達の蔵書を代表するものに、彼女達が興入れの際に持参する「嫁入り本」と呼ばれる書物がある。その多くは物語や和歌書で、当代の能書家の手による流麗な筆致、表紙には金泥で花鳥風月を描いた料紙や金欄を用い、一連の婚礼調度に合せた意匠の蒔絵や金具を施した箱に収められるなど、婚礼調度の一つとして整えられるのが常であった。一方、婚姻に際しては、各家伝来の宝物を持参することもあり、古筆の名品が母から娘、娘から孫娘へと婚姻とともに家から家へと伝えられることもあったであろう。

上流の婚礼道具の一つに書物が含まれるのは、古代、中世以来の伝統であるが、とくに江戸時代には、主要道具をかざる黒棚、厨子棚に、書棚が加わって三棚と呼ばれるようになる。このように書物の調度性が強まるに従い、装幀や挿絵に贅を尽した書物が数多くつくられたとも言えよう。

嫁入り本として整えられるものとしては、八代集、二十一代集、源氏物語、伊勢物語などが多かったが、その代表はなんといっても源氏物語であろう。二代藩主光友夫人となった將軍家光の娘千代姫の婚礼調度が、「初音の調度」をはじめとして源氏物語から意匠の題材をとっていることに象徴されるように、女性の所持品と源氏物語の関係は切っても切れないものであった。ちなみに、義直が父家康から譲り受けた「河内本源氏物語」(蓬左文庫蔵、国指定重要文化財)は、義直の遺品として、側室貞松院に、同じく義直の蔵書であった内雲紙を使用した源氏物語(現蔵者は不明)は一人娘京姫に与えられており、また、現在蓬左文庫には、嫁入り本または女性の所持品と推定される源氏物語が4種伝存している。

ところで、実際に尾張徳川家の女性達はどのような書物を所蔵していたのであろうか。以下、現存する蔵書目録から婦人ごとにその一端を紹介してみよ



くさ物語 (奈良絵本 六代藩主夫人 安己君所蔵)

う。

○三代藩主綱誠夫人新君（1654～1692）

母は義直の娘京姫。13才で江戸へ下るまで、名古屋で生れ、成長した。目録には、和歌集、物語を中心に42件632冊が記されている。嫁入本と考えられる蒔絵箱付の一連の書物の中に「東鑑」「源平盛衰記」「王代記」（中国と日本の皇統を編年で示したもの）があり、その他二種の「帝鑑図説」、当時出版されてまもない絵入百科辞典「訓蒙図彙」など、当時の大名家の婦人に要求された知識や教養が伺えるとともに、出版界の流行にも通ずる部分がある。彼女の蔵書は文庫から他へ移ったものが多く、現在確認できるのは、「徒然草」はじめ5件のみである。

○三代藩主綱誠側室梅小路（～1730）

同じく和歌集、物語を中心に53件565冊が目録に記されている。新君と共通したものに「和漢年代記」（王代記）、「訓蒙図彙」がある。このほか仏書が目立ち、また「平家物語」「信長記」など軍記物語や歴史物語が多い。さらに「武道伝来記」「諸国案内旅雀」「本朝三国志」など、当時評判の読物も含まれている。記録と合致するものでは、「百人一首」だけが現在も蓬左文庫蔵。

○四代藩主吉通実母本寿院（～1739）

6件59冊が記され、4件は和歌集。

○四代藩主吉通夫人輔子（1690～1731）

九条閑白家から輿入れ。4件29冊の記載がある。「空穂物語」の他は古典の注釈書。

○六代藩主継友夫人安己君（～1735）

摂政近衛家より輿入れ。7件145冊の記載がある。近衛家代々の嫁入道具に使用された葵、抱牡丹紋菊折枝散蒔絵箱入りの「源氏物語」をはじめ、物語、和歌集がほとんど。彼女の場合も多くが文庫から持ちだされ、奈良絵本の「草物語」「大黒舞」だけが残って、現在も当文庫に所蔵されている。

○九代藩主宗睦養子治行夫人志子（1757～1804）

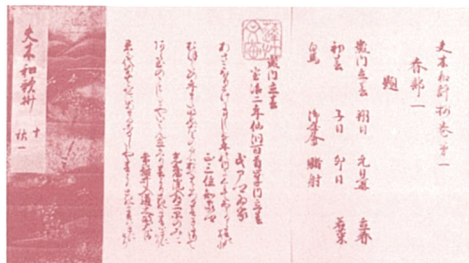
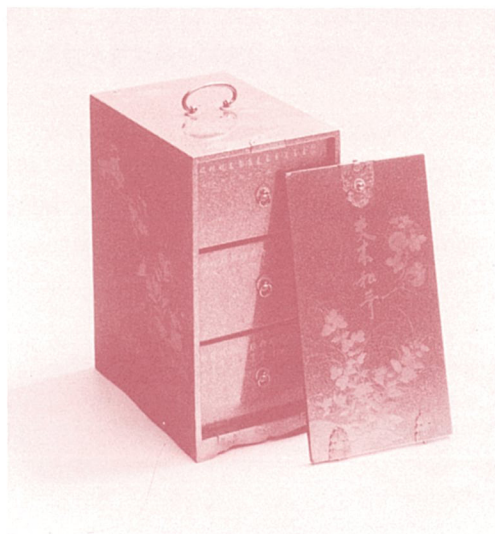
紀州徳川家より輿入れ、世子であった夫が先に没し、聖聡院を名のって、10年余を未亡人としてすごす。このためか、51件328冊のうち、48件は仏書。ただし、残り3件は、「和漢三才図会」「群書類従」「東海道名所図会」と当時のベストセラーばかりである。

このほかに、蓬左文庫には、大奥本と呼ばれる一群の書物がある。これは、藩主の夫人達が生活した江戸屋敷の蔵書と考えられており、この中には「修紫田舎源氏」「南総里見八犬伝」などの江戸末期に流行した大衆向け絵入り読み物のベストセラーがひとつとおり揃っている。

江戸時代の大名家の婦人達の蔵書の特色を示すのは、嫁入本に代表される美しい装幀の和歌書や物語であり、それは彼女達の支配階級の女性としての教養を象徴するものでもあった。しかし、一方、実際の蔵書目録に記さ

れた書名は、けっして和歌や物語にかたよっているわけではなく、むしろそれ以外の書物に彼女達の個性が反映されているように思われる。また、その内容は、彼女達が、当時の文化や出版事情と無縁な存在ではなかったことをも示していると言えよう。

〈参考文献〉 山本祐子「尾張藩『御文庫』について（二）」
（『名古屋市博物館研究紀要』第九巻 1986）
小池富雄「初音の調度について」
（徳川美術館編『初音の調度』1985）



「夫木和歌抄」容器(左)と表紙および巻頭(上)
（三代藩主綱誠夫人 新君所蔵）

「近世上流婦人の教養—尾張徳川家婦人達の蔵書—」出品目録

<物語>

1. 伊勢物語 定家本
室町時代写 (伝九条忠栄筆) 1 冊
2. 同 天福本
室町末期写 (伝牡丹花肖柏筆) 1 冊
3. 同 同
天正3年写 (伝近衛尚通筆) 1 冊
4. 同 武田本
室町時代写 1 冊
5. 同 同
6. 同
〔戸田加賀守献本〕 1 冊
同
江戸初期写 (五色料紙本) 1 冊
7. 空穂物語
江戸初期写
〔三代藩主夫人新君所蔵〕 20冊
8. 落窪物語
江戸中期写 4 巻4 冊
9. 源氏物語 青表紙本
室町末期写 (伝貞敦親王等寄合書)
54巻目録2巻極1巻56冊1巻
10. 同 同
天正8年写 (里村紹巴自筆奥書)
54巻系図1巻極2通55冊
11. 同 同
江戸初期写 (伝八宮良純親王筆) 54巻54冊
12. 同 同
同 54巻54冊
13. 万水一露
能登永閑
寛文年間刊 54巻62冊
14. 岷江入楚
中院通勝
江戸初期写 55冊
15. 源氏物語湖月抄
北村季吟
刊(延宝元年跋) 54巻付6巻60冊
16. しのびね
江戸初期写
〔三代藩主夫人新君所蔵〕 2 冊
17. 同 同 2 冊
18. 岩清水物語
江戸初期写
〔三代藩主夫人新君所蔵〕 2 冊
19. しぐれ
江戸初期写 (奈良絵本) 5 冊
20. ふしみときは
同 (同) 2 冊
21. くさ物語
同 (同)
〔六代藩主夫人安己君所蔵〕 2 冊
22. 大黒舞
同 (同)
〔同 同〕 2 冊
23. 栄花物語
正徳5年刊 8 巻目録系図各1巻9冊
24. 平家物語
天和2年刊 12巻12冊
25. 平家物語抄
江戸中期刊 12巻23冊
26. 源平盛衰記
慶長16年写 48巻目1巻48冊

27. 太平記
貞享5年刊 40巻序目剣巻各1巻21冊
28. 後太平記
多々良一竜
江戸中期刊 42巻目1巻22冊
29. 曽我物語
元禄14年刊 12巻4冊
30. 修紫田舎源氏
柳亭種彦著 歌川国貞画
文政11至天保13年刊 38編19冊
31. 其由縁鄙廼佛
一筆庵可候等著 一陽斎豊国画
弘化4至元治元年刊 22編11冊
32. 足利絹手染紫
笠亭仙果等著 歌川豊国等画
刊(嘉永至明治) 13編13冊
33. 女郎花五色石台
曲亭馬琴著 歌川豊国等画
弘化4至安政7年刊 8編6冊
34. 南総里見八犬伝
曲亭馬琴著
天保年間刊 101巻106冊
35. 犬の草紙
笠亭仙果著 一陽斎豊国画
刊(嘉永至明治) 52編26冊

<随筆>

36. つれづれ草
卜部兼好
江戸初期写 (奈良絵本)
〔三代藩主夫人新君所蔵〕 6 冊
37. 徒然草
同 2 冊
同
38. 増補鉄槌
山岡元隣
貞享2年刊 10巻6冊

<和歌>

39. 類句和歌集
江戸初期写 60冊
40. 袖中抄
釈顯昭
江戸初期写 5 冊
41. 和歌吳竹集
尾崎雅嘉
正徳6年刊 10巻10冊
42. 古今和歌集
紀貫之等編
江戸中期刊 20巻2冊
43. 同 貞応本
同
室町時代写 10巻1冊
44. 同
同
康正3年写 10巻1冊
45. 新古今和歌集
藤原定家等編
室町時代写 (伝飛鳥井雅俊筆) 20巻2冊
46. 新古今和歌集
同
正保4年刊 20巻4冊

47. 三代集
江戸初期写 1冊
48. 八代集
江戸中期写 140巻14冊
49. 同
江戸中期刊 140巻8冊
50. 十三代集
正保4年刊 40冊
51. 二十一代集
江戸中期写 400巻48冊
52. 同
正保4年刊 400巻56冊
53. 万葉集
江戸初期写 (平仮名附訓本) 20巻20冊
54. 三十六人歌集
藤原公任編
江戸初期写 36巻36冊
55. 百人一首
藤原定家編
江戸中期写 1冊
56. 同
同 1冊
同 1冊
57. 同 附・制詞歌
江戸初期写
〔三代藩主側室梅小路所藏〕 1冊
58. 小倉山莊色紙倭歌
江戸中期写 1冊
59. 小倉山莊色紙和歌
同 1冊
60. 夫木和歌抄
藤原長清編
江戸初期写
〔三代藩主夫人新君所藏〕 36巻目 1巻37冊
61. 清少納言家集 俊成卿女家集
江戸中期写 1冊
62. 拾遺愚草
藤原定家
室町時代写 2巻2冊
63. 玉吟集
同
江戸初期写 1冊
64. 六家集
江戸中期刊 18冊
65. 六百番歌合
日野弘資
宝永元年写 1冊
66. 宗祇短歌
釈宗祇
慶長10年写 1冊
67. 和漢朗詠集
藤原公任編
室町時代写 (伝二条為重筆) 2巻2冊
68. 同
同 (山崎宗鑑筆) 2巻2冊
69. 同
同
貞享元年刊 (絵入本) 2巻2冊

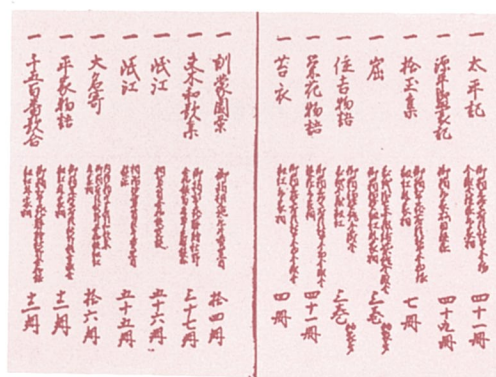
〈歴史・地理等〉

70. 東鏡
江戸初期写 55巻69冊
71. 吉野拾遺
江戸中期写 2冊
72. 安土記
太田牛一
江戸中期写 15巻15冊

73. 重撰和漢皇統編年合運図
釈円智
江戸初期写 4冊
74. 日本王代一覽
林恕
寛文3年刊 7巻7冊
75. 帝鑑図説
明・張居正 呂調陽同撰
江戸初期刊 12巻7冊
76. 群書類從
塙保己一
刊 (江戸) 530巻目 1巻666冊
77. 頭書訓蒙図彙
中村之欽
元禄8年刊 21巻目 1巻8冊
78. 和漢三才図会
寺島良安編
刊 (正徳3年序) 105巻首尾各 1巻81冊
79. 東海道名所図会
秋里舜福 著 北尾政美等画
寛政9年刊 6巻6冊
80. 新編鎌倉志
河井恒久 著 松村清之訂
力石忠一補
正徳3年刊 8巻序目 1巻9冊

〈目録その他〉

81. 享保六年御書籍目録
写 (寛保3年9月) 1冊
82. 馬場御文庫御書籍目録
写 1冊 (7冊の内)
83. 円覚院様・源藏様・泰心院様・源明様
御方々様・当御代様御書物目録
写 (文化10年頃) 1冊
84. 御文庫御蔵書目録
写 (寛政年間) 1冊 (6冊の内)
85. 女礼集伝記
天明元〜3年写 15冊
86. 女礼議抄
寛政12年写 5冊
87. 女礼座莊次第
写 1冊



瑩珠院様(新君)御書物(享保14年入庫)
 (「馬場御文庫御書籍目録」 このうち
 『夫木和歌集』が現存する。出品番号60)

2. 蓬左文庫へ就職

前回お話ししたような次第で、蓬左文庫に書記として採用された訳ですが、最初に文庫を見た時の印象は、あまりの古書の多さに茫然としてしまった、といったものでした。大学時代に日本史を専攻していましたので、古書を見たのは初めてではなかったにせよ、実際に手にする機会はほとんどありませんでしたので、まあ初めての経験と言ってもいいでしょう。しかも尾張藩に伝わった重要文化財を含む何万冊もの本が、薄暗い書庫の中に納められているのですから、ただ圧倒されてしまって、もう、すぐに辞めて逃げ出そうと思いました。とは言いますが、せっかく縁があって採用されたのだからと思い直しまして、その後東洋文庫へ長澤規矩也先生の漢籍講習会に通ったり、自分でも勉強したりしまして、だんだん古書のおもしろさに引かれてゆき、今日に至っているわけです。それと言うのも、周囲に優秀な方々がたくさんみえまして、いろいろなことを教えていただいたということが大きかったからでしょう。

当時の黎明会のメンバーは、会長が徳川義親先生、副会長が義知氏、専務理事が前回にも述べた鈴木信吉氏、常務理事が五味末吉氏でした。鈴木・五味の両氏は、旧尾張藩士の子孫で、共に蔵書を文庫に寄贈されています。文庫の職員は、書記が福井保氏と私、それに英・邦文タイプをこなす今井伏子さんの計三名でした。福井氏は、私と同年代か少し下で、私より早くから文庫に勤めていらっしゃいました。一緒に仕事をしたのは半年くらいだけで、辞められた後は満州の方へ行かれて、戦後は内閣文庫の方で仕事をされていました。この福井氏と、蓬左文庫の顧問をしていらっしゃった山岸徳平先生のお二人から最初の書誌学の手ほどきをうけたのです。当時山岸先生は文理大と学習院の教授で、文庫の河内本源氏物語の複製を作られており、ひんばんに学生をつれて文庫を利用していました。

福井氏が辞められたあとに文庫に入られたのが、先日お亡くなりになった森銑三先生で、東大の史料編纂所を辞められた後、しばらくフリーで文筆活動をされていたのが、名古屋図書館長だった阪谷俊作氏の紹介で文庫に入られることになったのです。森先生は、当時45～6才、背広はまったく着ないでいつも和服、はかまで通し、その姿には颯爽たるものがありました。森先生は、刈谷図書館で村上文庫の整理をされたり、史料編纂所で図書を扱われたりと、長年の経験をお持ちだったので、見事な古書の扱いでした。また、大変に博識な方なので、いろいろ教えていただくことも多かったものです。

文庫は門に入って左手にあったのですが、右手には一階に生物学研究所、二階に林政史研究所が使用していた鉄筋コンクリート二階建の建物がありまして、その一階に食堂があったのです。これは木造で、十人ほどが入れるくらいでしたが、鉄筋はこれに建て増したもののらしいです。その食堂に、毎日三時になると文庫と林政史研究所と生物学研究所のメンバーが集まりまして、お茶を飲んだものです。林政史研究所からは所先生など3人くらい、生物学研究所からは学者兄弟として有名だった田宮博先生をはじめとして6～7人、それに文庫から森先生

と私が参加して、お菓子を食べながら雑談をするのです。これが皆、さばけた人達ばかりで、話題の豊富な所、森、田宮の三氏が蒞蓄を傾け、我々はそれを拝聴するということが多かったのですが、内容は古今東西に亘って非常にバラエティーに富み、どれもこれもおもしろい話ばかりで、しかも、こんこんと泉の如く尽きない話ぶりでしたので、30分くらいはあっという間に過ぎてしまい、時間のたつのが惜しいと思うことがよくありました。あの時の雑談を残しておけばよかったと、今でも思います。

織茂三郎 談（元蓬左文庫調査研究員）



〔旧蓬左文庫〕第壹號書庫

★次回展示のお知らせ — 「字書と事典—『ことば』と『もの』への知識欲—」 4月10日(土)～6月12日(日)
(5月19日(木)・20日(金)は展示替休室)

出版物一覽

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S. 50年刊)	3,500円	名古屋叢書三編第12巻(S. 56年刊)	3,000円
名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S. 51年刊)	4,000円	同 第8巻(S. 57年刊)	3,000円
名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(同)	2,500円	同 第16巻(同)	3,000円
尾崎久弥コレクション目録第一～三集	各 1,500円	同 第19巻(同)	3,000円
名古屋叢書(正編)索引・総目録(S. 53年刊)	2,000円	同 第17巻(S. 58年刊)	3,000円
名古屋叢書続編 索引(S. 47年刊)	700円	同 第4巻(S. 59年刊)	3,000円
名古屋叢書続編総目録(S. 44年刊)	400円	同 第9巻(S. 60年刊)	3,000円
善本解題図録第一～三集(S. 55年再版)	各 300円	同 第11巻(同)	3,000円
日本の古典<蓬左文庫図録>(S. 52年刊)	200円	同 第18巻(1)(同)	3,000円
蓬左文庫・源氏物語図録(S. 53年刊)	300円	同 第18巻(2)(同)	3,000円
蓬左文庫所蔵古地図複製 No.1～No.15(S. 55～61年刊)	各 1,800円	同 第15巻(S. 61年刊)	3,000円
御本印型書鎮(S. 58年製)	1,000円	同 第14巻(同)	3,000円
堀田文庫蔵書目録(S. 58年刊)	500円	同 第10巻(同)	3,000円
蓬左文庫絵葉書<8枚組>(同)	300円	同 第2巻	
蓬左文庫図録(同)	1,500円	一尾藩世記 上一(近刊)	3,000円
蟹江慶次郎旧蔵書目録(S. 62年刊)	500円	同 第3巻	
		一尾藩世記 下一(近刊)	3,000円

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。郵送希望の方は郵送料が必要です。お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

利用ご案内

- ▷開館時間 午前9時30分～午後5時
- ▷休館日 毎月曜日・第3金曜日(館内整理日)
- 祝日 (日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)
(月曜 〃 月・火休館)
- 年末年始(12月28日～1月4日)
- ▷閲覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません
- (閲覧料) 普通図書 無料
- 重要図書 有料(1部350円)

- ▷展示 随時蔵書の一部を展示
- (特別展を除き入場無料)
- ▷複写サービス 普通図書のうち、保存上影響のないものについて複写サービスを行います。その他、マイクロフィルムの利用、写真撮影の申請を受け付けますので、ご来庫の上、ご相談下さい。

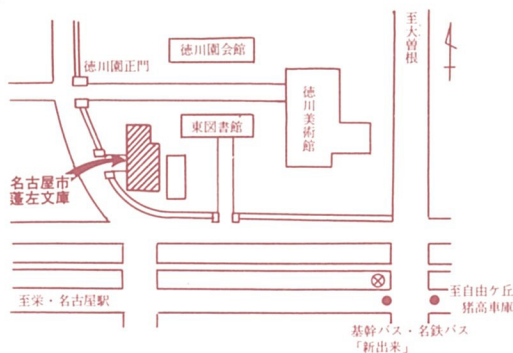
名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町1001番地

☎(052)935-2173

(<名古屋駅から> 市バス(基2)「自由ヶ丘」「猪高車庫」行
名鉄バス「本地ヶ原方面」行
(栄から) 市バス(基2)「引山」「自由ヶ丘」
「猪高車庫」行

「新出来」下車、徒歩4分



「蓬左」第33号 ☆昭和63年1月16日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)

☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷株式会社(東区泉2-3-18)